

進取 自律

豊崎中学校
校訓 昭和45年～

令和元年11月14日(木)
第10号
文責 前田篤志



煌めきと学びが満載の文化祭

生徒のアイデアで創り上げた今年の文化祭。お陰様で、たくさんの方々が最後まで参観していただき、盛況でした。ありがとうございました。生徒たちは文化祭を終えて、それぞれがやり切ったという充実感を得ることができたのではないかと思います。これまでにない新しい形に取り組んできた成果や改善点を、生徒も教師も感じているところです。今年の文化祭から、生徒たちはどのようなことに気づき、学び、成長したのでしょうか。3年生の振り返りを紹介します。

○体育館の準備を率先して行ったが、後輩に準備物の確認をさせられなかった。本番に普段は間違えないセリフを間違えてそのあとボロボロだった。放送原稿を集める計画が乱れたのをすぐに修正できた。自分の29人展の計画を見直して終わらせることができた。29人展の仕事で前半はできたが、後半は仕事を任せきりにしてしまった。お客さんの前で、アドリブで言うことができた。文化祭のプログラムができた後に、放送の順番を変更することができた。初めてのことばかりだったが、進んで動いたり周りの下学年に指示を出したりできた。本番中の急な音量調節にも対応できた。準備も本番もとても楽しかった。

○今年の3年生最後の文化祭は、自分たちで文化祭をやることになって、準備するものがとても多く、本番までにできるかなと不安になりました。劇ではセリフが多い役をやることになって、覚えたり動きを考えたりすることが多かったです。他にも指揮者の練習や、仮装もしなければならなくてとても大変でした。中でも自分はパソコンがあまり得意ではないので、29人展のパワポを作るのが苦労したことです。本番では行動を早くすることができ、自分がやることをこなせたのでよかったです。今までで一番忙しかったけど、一番楽しい文化祭になりました。

○本番で最高の演技ができた、人をまとめて指示を出せたことがよかったです。実行委員をして、人のまとめ方を知ることができました。準備の中で時間の使い方と計画の大切さを知りました。自分のことより他のことを優先できたことが、文化祭で一番よかったです。これからは、文化祭で学んだリーダーシップを生かしていきます。

○計画を立ててもその通りに進めるのは大変だった。全校生徒が危機感をもつのが遅かった。29人展で大人の人たちが見に来てくれてうれしかった(米兵の方々も一緒に)。まずは話し合い、全員の同意を求める。自分が色々なことを同時にしていると他の人のサポートができないということ、人それぞれに個性があって、自分にしかできないものがあるということ学んだ。自分の中で抱え込むのではなく、他の人たちと相談してやった方が、よりよいものができるということも学んだ。

○周りを見て、臨機応変に動くことができた。ほぼ毎日、学校でも家でもパワーポイントを使って作業していて、自分たちで作る大変さを知ることができました。また、作業する中で計画通りできなくなっても、すぐ話し合っ乗り越えることができました。改めて話し合うことの大切さを学ぶことができました。成長したことは、他の学年の人ともたくさん話せるようになったことです。実行委員会でコミュニケーションをとることができました。これからの生活でもいろんな人とたくさん話し合っていきたいと思います。

○去年までの文化祭までは、家族に見られるのが恥ずかしくて隠れていたが、練習を重ね自信がつき、今年の本番は違う自分になっているような気がしました。一番見てほしかった合唱を見てもらってとても嬉しかったです。劇では、演技のアドバイスをし、みんなで完成させればいいんだということに気づきました。他の仕事をもっている人の手伝いができたので、それを他に生かせるように、今後も自分にできる限りの仕事をし、みんなのためになることをしていきたいです。

○仲間が盛り上げてくれて、お客さんが盛り上がりすぎてくれてうれしかった。大きなトラブルなく

無事文化祭を終えられてよかった。(トランシーバーを覚えてうれしかった)計画を立てることの大切さがわかった。自分が立てた計画の甘さもわかった。一人で完成させるのではなく、ときには周りに頼ることも大切なのだということがわかった。どんなに苦しくて時間が足りないとっても、周りの人と協力すれば完成させることができることがわかった。たくさんの人の前で、アドリブで発表できるようになった。人は頼られることがうれしいということがわかった。自分たちの手で行事を作り上げることができることがわかった。1つのものを企画するとやらなくてはいけないが思っている以上に多くて大変だということがわかった。

- 計画を立てることの難しさ。新しいことを一からやるのは大変。忙しいことほど楽しいこと。周囲の人にも意見をきいて仕事をすすめられた。駄菓子屋は余裕をもってできた。劇では一人振り切れるとまわりもよくなっていく。全員の意見を聞いてよりいい方向へなるように努力する。リーダーを頑張れた。体調をくずさなかった。自分の仕事も有志も並行してできた。他の人の仕事を手伝えた。一回だけ時間をもらってしまった。時間内に終わらせられなかった。
- 文化祭を通して、計画性の大切さを改めて実感しました。今回は手紙が遅れたことによってCDを集める期間が短くなってしまいました。また、周りにもう少し声をかければよかったとも思っています。放送原稿をもらったり、助けを求めたり等をもっと早めに声をかけたいと思いました。最後に、手紙の予備を印刷すればよかったと思いました。今年の文化祭で紙をなくしてしまったという人がいました。今年の劇を練習、本番までを通して見て、度胸がついたと思います。そして、CDの編集をしてたくさんのお話を学び、得意を見つけることが出来ました。これから生活していく中で、計画を立てることがたくさんあると思います。そのためにも、やってみて気付いたことをひとつひとつ出来るようにしていきたいです。
- 去年の文化祭から学んで物事を自分一人で抱え込まないように気をつけました。そして、適度に先生や友達に相談しました。でも熱くなりすぎてクラスの人に強く当たってしまった時があったので本当に申し訳ないと思っています。だからこれからは自分の気持ちをしっかりとコントロールして、周りに迷惑をかけないようにしたいです。本番では、終始心臓がバクバクドキドキしていたけど、文化祭が無事に終わると達成感であふれました。でも、少しさびしい感じでもありました。自分自身、仕事を任されるのも、たくさんのお話をかかえるのも大変だけど、大好きなんだと改めて知ることができました。行事を通していつも思うのは、普段の生活ではヘラヘラしてふざけて遊んでいる3Aのクラスが行事とかのリーダーになると、急に秘めていた力を発揮するという事です!!この力を受験でも発揮できるようにしたいです。
- 夏休みから文化祭準備が始まって、私が一番心配していたことは「劇」です。私は主役に近い桃子さんの役をして台本を渡された瞬間、こんなの覚えられるのかなと思いつつも困りました。でも案外覚えられる事はできたのですが言葉に感情が入ってなくて、教頭先生からもこうすればいいんじゃないと言われてもどうすればいいかわかりませんでした。そんな時に桃子になり切ればいいんじゃないと言われて、やってみたら全然違って、自分でもこうすればよかったんだなと思いつつも、だんだん切り切れてきて「今日はよかったね」などと言われて、とてもうれしくなりました。本番では皆も役になり切っていたので、とてもいい劇になったと思いました。自分が成長できた事にとってもうれしかったです。劇をやった事によって自分に勇気をもらえたような気がします。桃子さんを演じれて改めてよかったと思います。後悔のない劇にできて本当によかったです。

かなり長い引用となりました。

最後に、今回の文化祭は、本校の教職員にとっても初めての試みだったことについて述べます。教師が主導して一定の展示やステージを指導する役割から、子どもたちが自ら決めた企画を実行できるようサポートする役割という、発想の転換が必要でした。教師自身にも指導のノウハウがない中、まさに学校中がゼロからのスタート。生徒が創る(担う責任が増える)文化祭にすれば、実は伴って教師が果たす役割は増え、より細やかなサポートの在り方が求められることとなります。生徒とともに、教職員も成長した文化祭でもありました。私が目指す「生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が応援したい、教職員が働きたい学校」に少しでも近づけるよう、今回の文化祭で得られた成果と課題を踏まえて、これからも努力する所存です。

